

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2018年
12月18日
第156号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

保育を楽しむための学習会 連続講座第3回目は、「生活を楽しもう」

当日は、実践報告をもとに、ワールドカフェ方式でグループ討議を行いました。

《実践報告》

「今回の実践は失敗なので」と自虐ネタを織り交ぜて始まった「生活を楽しもう」の実践報告。実践の中身は、担任の素直な思いが書かれ、最終的に子どもの願いに沿って保育を展開したり、担任のひらめきがあったり、楽しんだ様子が伝わってきました。ワールドカフェに入る前に生活とは何？を確認しました。“生活”とは、養護の中に深く関わっています。そして、新保育所保育指針では教育と養護が切り離れているが依然として養護と教育を一体的に行なうところが保育園なのでこの養護部分をいかにきめ細やかに丁寧に進めていくということが重要なのです。その養護という局面の中で例えば食事・午睡・排泄などがありますがそれも楽しみたいですね。と続きました。

《ワールドカフェ》

今回のテーマは、「保育の中でクスツとしてしまった場面」でした。どのグループからも普段のワールドカフェ以上に笑いが絶えず起こり、クスツとしたことが日頃保育室の中に溢れていることが伝わってきました。終わった後は、「心のゆとりを持って保育をしたい」「職員同士の関係づくりが大事」と感想を書かれている人が多かったです。

《まとめ》

生活の場面はどうしても大なり小なり頑張らせ過ぎちゃうことがある。昔から“這えば立て立てば歩めの親心”ということわざがあるように。もっとこうなってほしい。もっとこうしてほしい。と大人の願いが出やすくなってしまう。だから、大人がどれだけ意識して関わるかが大事だと思う。

例えば私たち食事の場面で「あと一口食べたらいいよ」と言ってしまうことがある。その時の子どもと大人の立ち位置ってどうなのか考える必要があり、保育者が自分の中で区切りや折り合いをつけたいだけで、そこには子どものねがいはない。子どもの発達は、非連続なので昨日食べれても今日食べれないこともある。

生活の場面は楽しくならないことが多いのでより意識して楽しめるようにする必要があると思う。

また、保育にもっとも重要なのが保育室に安楽をつくること。（安心して楽しい空間）とお話をいただきました。

参加者の声

☆20代保育士1年目

自分の意見も伝えやすく、先輩保育者とも気兼ねなく話ができたのが嬉しかったです。自分の園では1年目ということもあり、自分の意見をはっきり言えないので本音を話せるそして聞いてもらえるのも嬉しいと思いました。